

アフリカ開発と日本

モデレーター 片岡 貞治

〔 アフリカ諸国が日本に期待すること 〕

パネリスト エミール・ルワマシラボ閣下
(ルワンダ共和国特命全権大使)

Africa's Expectation to TICAD IV

アナウンス：お待たせいたしました。これより第1セッションを開催させていただきます。第1セッションのテーマは「アフリカ開発と日本」です。モデレーターは片岡貞治国際戦略研究所長です。ルワンダ共和国特命全権大使エミール・ルワマシラボ閣下、株式会社国際開発アソシエイツ代表取締役堀内伸介様、ご登壇ください。

早稲田大学国際戦略研究所長 片岡貞治：それではアフリカセッションをはじめさせていただきたいと思います。アフリカセッションはさきほど冒頭申し上げましたとおり、2008年の重要なテーマでございまして、先ほど薮中事務次官からお話がありましたように、今年は、毎年のようにやっていますが、アフリカの年という位置づけをしてもおかしくないほど、アフリカに関する会議などが目白押しでした。とりわけ、今年度上半期にアフリカのことを議論する、特に開発のことを議論する最も重要な会議がここ日本、横浜で行われまして、TICAD IVという会議が行われて、若干それを踏まえ、洞爺湖サミットが行われたわけです。

現在、アフリカに関する話を簡単にお話しますと、アフリカに世界中の注目を集めている、いろんな国がアフリカに関心をもって接近していると。実は冷戦構造が、崩壊後の1つの枠組みとしましては、アフリカのマージナル化が一種の共通の認識でした。しかし数年来、その共通認識に変化が生じはじめました。すなわち、アフリカという問題が、問題かどうかはまた別ですが、国際社会の最前線に躍り出てきていると。そして、国際社会が直面する最重要課題の1つとして認識されはじめているということなのです。

かつて、欧州列強や国際社会からアフリカというのは1つの対象である、客体である、オブジェクトである、というふうに翻弄され続けていたのですが、今や、今日、アフリカの主体となって、ようやく歴史的に復権しつつあると。

たとえば経済的には、これはあとでもお話ししますが、各国が平均5.3%ぐらいの経済成長率をたたき出しておりまして、2008年を6%、あるいは2009年はその水準をさらに引き上げるのではないかとという数字まで出てきております。

そしてそれは、昨今の原油高騰、資源ブーム、そして、一次産品の急速な値上がりによって、多くの諸国がその一次産品の値上がりによって、その所得が増大しているということがいえると思います。

ただ問題は、一次産品の価格が上がって、所得が増大しているのですが、構造としましては、一

次産品の資源を売って、それをなりわいとするという、換金作物の経済という構造にはあまり変わりがないと。

実際に石油などが跳ね上がる、あるいはボーキサイトですとか銅とかの値段が上がっておりますけれども、製造業といのは、まだ発達しておりませんし、加工技術もまだまだ未発達です。

そんな中でも、今さまざまな国がアフリカに狙いを定めております。もちろん、ヨーロッパ、あるいはEUなどもその筆頭ですけれども、特に中国、ロシア、さらにはインド、最近ではブラジル、ベネズエラ、韓国、トルコ、イランまでもアフリカとの会議などを開こうとしています。

こうしたアフリカブームの中、アフリカの関心が薄れていくという状況下で、冷戦構造崩壊直後から日本も積極的に関与をはじめ、93年にTICAD Iを開き、トップドナーとして、当時ですけれども、G 8の枠組みの開発問題やアフリカ問題を喚起、そしてアフリカ問題の重要性を国際社会に訴えかけるという、非常に先鞭をつける役割を果たしてきました。

その日本のTICADから98年のTICAD II、2003年のTICAD III、そして今年2008年のTICAD IVが行われたわけです。そのテーマはアフリカ問題に対していかに対応するかが共通したテーマでした。

このセッションにおいては、まさにアフリカ開発を考えるというわけで、2人の非常に著名なパネリストを用意させていただきました。ファーストバッターは、ルワンダ共和国の駐日大使、エミール・ルワマシラボ閣下です。

ルワマシラボ閣下は泌尿器科医ですが、以前はルワンダ国立大学の学長をやっておられ、学問的にも造詣の深い方です。ルワンダ大使のお話の後、堀内伸介元大使にお話をいただきます。それでは早速、エミール・ルワマシラボ大使にお話をしていただきたいと思いますと考えております。

H. E. Dr. Emile Rwamasirabo, Ambassador of Rwanda to Japan: Dr. Kataoka, ladies and gentlemen, I wish to thank you first of all for inviting me to this panel discussion on African development in the context of “Thinking of Japan’s international role.” I am very happy that the Vice-Minister was here to make a very comprehensive background to all this talk. I am also very happy about the introduction made by Dr. Kataoka.

ルワンダ共和国駐日全権大使 エミール・ルワマシラボ閣下（以下「ルワマシラボ大使」）：片岡先生、またご参加の皆様、本日はこちらのパネルディスカッションの一パネリストとしてご招待いただき誠にありがとうございました。私といたしましては、本日のテーマ、日本の国際戦略を考えるという枠組みにおきまして、アフリカ開発と日本というところで、私からもお話をさせていただきますと思います。

さきほど、薮中事務次官から本日のテーマについてはフォーカス的な背景としてのいろいろな情報をお話いただきまして、また、今、片岡先生からのご紹介にもありましたように、まさにアフリカの開発ということもホットなテーマになっております。

Dr. Rwamasirabo: I was requested to talk about African expectations to Tokyo International Conference on African Development (TICAD) IV, which is a very complicated exercise since it is very difficult to translate all the wishes and dreams of 53 countries in the continent but I tried my best based on the discussion that goes on between the Ministry of Foreign Affairs and within the African Diplomatic Corps in Tokyo to give a broad consensus on TICAD IV expectations.

ルワマシラボ大使：TICAD IVに対してアフリカ諸国が日本に何を期待するのかについて話してほしいという依頼を受けました。実際に53カ国が抱く希望や夢、すべてを実現させようというの

は極めて難しい演習ではありますが、日本の外務省、アフリカの各国を代表するメンバーたちの討議に基づき、私たちとしましては、なるべく幅広いコンセンサスを得ようと努力をしているわけであります。

Dr. Rwamasirabo: Next slide please. I will try to – in order to give an overview on the African development agenda – look at the African development needs commitments, both in Africa and outside Africa, and then come back to TICAD IV action plans and challenges and strategies. In the process I hope I will be able to make you understand what Africans expect from TICAD IV.

ルワマシラボ大使：本日の話のテーマでありますけれども、まずはアフリカの開発の概要についてお話ししたいと思います。さらに、アフリカの開発に対するニーズ、またその目標とかコミットメントについてもお話しと思いますが、アフリカ域内にとどまらず、アフリカ域外に関してもふれたいと思います。

その中でTICAD IVについてどのような行動計画が策定されたのか、どのような課題・戦略があるのかをお話をし、アフリカ諸国がTICAD IVに何を期待しているのか、皆様のご理解を深めることになれば幸いと存じます。

Dr. Rwamasirabo: Next slide please. Africa today, as you know it, is 53 countries, a continent – the second biggest continent with almost 1 billion people. Lots of cultures, more than 1,000 languages; and as you know, it is the home for the human species, which developed several million years ago.

ルワマシラボ大使：現在のアフリカですが、53カ国で構成しているアフリカ大陸であり、大陸の大きさでは世界第二の規模になります。人口は約10億人になり、数多くの文化がこの大陸には存在し、言語だけでも1,000ほどの言語があるアフリカー地域であります。また、数百万年前に誕生した人間の種の故郷がこのアフリカ大陸です。

Dr. Rwamasirabo: Africa is also home to a big amount of resources: not only human resources but also natural resources that the world is in great need of. So for this reason Africa is looked upon as a concern for the whole world.

ルワマシラボ大使：またこちら、人間の故郷だけでなく、大量の天然資源の宝庫でもあります。そのような天然資源を世界各国が必要としているわけです。このアフリカという地域が、世界各国から1つの大きな課題として注目を浴びる理由がそこにあります。

Dr. Rwamasirabo: Next slide please. But Africa, until a century ago, was not the Africa of today.

ルワマシラボ大使：100年ほど前のアフリカは今日のアフリカとはまったく違った状況にありました。

Dr. Rwamasirabo: It is very important to look at what Africa was a century ago to understand what some of the problems that African development is facing today.

ルワマシラボ大使：まず100年前のアフリカの状況がどうであったのかをまずは振り返った上で、現在のアフリカの抱えている状況をみなければいけません。

Dr. Rwamasirabo: The issues of nationality, the issues of borders in the states that were preexisting that time had a totally different meaning.

ルワマシラボ大使：その当時、国といわれるところ、また国境といわれるものは、現在とはまったく違う意味を持つものでした。

Dr. Rwamasirabo: Next slide please. In the colonial era, Africa was some kind of division of 5 or 6 big entities, ruled by the colonial European powers, which is far different from the Africa that we have today.

ルワマシラボ大使：また、植民地時代はヨーロッパの数カ国によってアフリカ大陸が統治されており、当時は、アフリカは5～6の主なる主体に分かれていましたので、現在のアフリカの構造とはまったく異なるものでした。

Dr. Rwamasirabo: So the impacts of these developments are too fresh in the memories of people. It is not very difficult to understand why the conflict that we have, the difficulties that we have – that is building institutions, the difficulties that we have in developing – it is not difficult to understand some of those challenges.

ルワマシラボ大使：当時のアフリカというのは記憶に新しいものであります。それが現在のアフリカの開発に影響を及ぼしています。なぜこのように対立があるか、紛争があるのか、さらにはなぜ開発を遂げる上で大きな課題に直面するのか、という理由もそこにあります。

Dr. Rwamasirabo: Next please. Despite all the efforts that are being done, the reality of today is that Africa is still marginalized in terms of economic growth and trade because Africa only constitutes 1% of world GDP and 2% of global trade.

ルワマシラボ大使：アフリカのマージナル化が経済成長と貿易の面でまだみられています。といいますのも、世界のGDPの1%にしか相当しないということ、また世界貿易に関しましても、わずか2%にしか相当しないからです。

Dr. Rwamasirabo: This is why people, not only from Japan, but also from other countries, do not always understand why Africa has to be assisted for development because today's relations between nations are based on interests, especially economics interests. What Africans are trying to do is to really convince the international community that assistance to Africa is an investment – maybe a long-term investment – but it is an investment to harness all these markets and all these resources.

ルワマシラボ大使：アフリカがなぜ開発にあたって支援ないし協力を必要としているのか。その理解が不十分であるのは日本人のみならず、他の国の方々も同様です。

各国間の関係というのは、国益であったり経済的な利益であったりというところにどうしても着目してしまいます。したがって、このような状況下において、アフリカとしては、国際コミュニティを説得して、アフリカ支援はすなわち長期的投資であると、また、投資によって世界がマーケットとリソースを享受できるということを説得にかかっているわけです。

Dr. Rwamasirabo: Africa has developed a vision for overcoming this political and development hazard. The belief in the unity of the continent and the belief also in the regional economic entities on the continent – these established eight regional economic communities throughout Africa that have integrated the historical links between these cultures. Africa has also developed development agenda through the NEPAD (New Partnership for Africa's Development) in 2001.

ルワマシラボ大使：そこで、アフリカとしては、このような政治的、また開発面でのハードルを克服するための1つのビジョンを打ち出しました。

それはこの大陸に地域的な経済圏を形成しようということです。つまり、地域経済コミュニティを8つアフリカ大陸に作ることによって、歴史的な、また文化的な側面のさらなる統一、でなくても統合化をはかろうとすることです。

さらには2001年にNEPADといわれるアフリカ開発のための新パートナーシップがあり、これを介して、開発アジェンダを構築する努力も行われています。

Dr. Rwamasirabo: Africans have shared principles and values for this vision. They believe it is very important. They work out a governance system that will help them to live together and develop. They believe they have to own development of Africa and they believe they have to develop leadership themselves to be able to overcome all these challenges. In view of that, the development should be based on the resources that the continent has, starting from its human resources.

ルワマシラボ大使：アフリカとしましても、このようなビジョンにおける原理原則、価値観を共有していかなければいけないと認識を深めているわけです。

また、私たちはグッド・ガバナンスを確立しながら、オーナーシップを持って自らアフリカを開発するという、それを共生しなければいけないと考えているわけであり、さらにはリーダーシップを自ら発揮することも知覚するわけです。

このような形で、私たちが抱えるこれらの課題を克服していきたいと思います。さらなる開発は、この大陸においては、人的資源にはじまる。しかしその他の多くの資源を、アフリカ自らで開拓・開発しなければいけないと考えています。

Dr. Rwamasirabo: Next please. We have come up with priorities that as a continent we believe are the basic foundation for our development: governance; agriculture; human development; infrastructure development; diversification of production; intra-African trade development; and the environment. These are the basic conditions that have been agreed upon by all African countries but of course they are parallel to these national priorities.

ルワマシラボ大使：アフリカ諸国がすべて合意した基本的な条件をアフリカ大陸開発のロードマップの中での優先事項として考えられるわけです。

これが開発の基盤をなすものですが、そこにあるのがいわゆるガバナンス、農業、人間開発、インフラ開発、生産と輸出の多様化、アフリカ域内の通商、貿易、環境というものです。

もちろん、このような共有した優先事項に並行して、各国が定めた優先項目もあります。

Dr. Rwamasirabo: Basically these are the priorities on which the TICAD IV – that took place in May this year – was based. The four pillars of TICAD IV and the action plan that was designed were based on these priorities.

ルワマシラボ大使：このような基本原則に則って、今年5月に横浜にてTICAD IVが開催されました。こちらには4つの柱があり、このような優先事項に基づいた行動計画が打ち出されました。

Dr. Rwamasirabo: Next please. There are of course many other international initiatives. The African initiatives ? the African Union (AU) and NEPAD – actually engaged in developing goals and targets for development in key development issues in Africa. So African countries are working together to design, to implement even – to fix targets for this development.

ルワマシラボ大使：アフリカ内でも多くのイニシアティブが行われています。アフリカ連合(AU)、NEPADが設定した開発目標があります。

多くのアフリカに共通する問題に関して、開発の目標を掲げ、そのやり方を設計し、実行にまで移すことを行っています。

Dr. Rwamasirabo: The UN has proposed the Millennium Development Goals (MDGs) that Africa has owned, and it is part and parcel of its own development agenda. Several other international declarations – including Monterey 2002, Rome 2003, Paris 2005 – also brought some valuable addition to the previous ones, especially those ones dealing with the quality and the quantity of aid.

ルワマシラボ大使：国連のアフリカのアジェンダ、ミレニアム・ゴールも設定されました。MDGです。

この開発アジェンダはアフリカの独自の計画にそった形で提言されています。他にも多くの国際的な宣言があります。2002年にはモンテレー、2003年ではローマ、2005年はパリにおいて、開発計画における質と量、援助に関する質と量について宣言が行われております。

Dr. Rwamasirabo: The G8 summits have also been another global forum to address the development of Africa. In actual fact, the Okinawa Summit in 2000 was the first one that brought African leaders on board. Since then, G8 summits have been a very important forum for African development needs. We have referenced the 2005 G8 at Gleneagles in Scotland – pledged to double aid to Africa from US\$29 billion to US\$54 billion per year.

ルワマシラボ大使：G8サミットにおいても、2000年、沖縄サミットにおいて、G8サミットで初めてアフリカが招待されたのを皮切りに、アフリカ問題がG8サミットの重要課題と位置づけられ、多くの討議がかさねられてまいりました。

2005年のグレンイーグルズでは、アフリカの援助を年間290億ドルから540億ドルに倍増させる宣言が行われたということで、特に重要視をしている宣言と考えております。

Dr. Rwamasirabo: Of course we have the TICAD process that has been created by Africans for having brought the African agenda on the global map, when after the 1980s – which was called the lost decade for Africa – Japan was credited with bringing back the African development on the global agenda again.

ルワマシラボ大使：TICADという一連の行動もございます。これはアフリカが主体で行っているものですが、日本は1980年代からアフリカの開発において、TICADの動きにおいて大きな貢献をしてくださっています。

Dr. Rwamasirabo: Next please. In September this year there was an evaluation process at the UN – an evaluation of various initiatives that took place to address African development needs. Globally there are two important challenges on the part of African states. It has been noted that there is significant progress in very important areas such as primary education, and gender equality in education. But also it has been noted that many targets – especially MDGs – were not met, especially due to insufficient capacities, both institutional and individual, and insufficient resources to design relevant policies, plan, and execute. Especially when you look at some of the goals – such as poverty reduction, child malnutrition, child mortality rates – some of these goals proved to have been extremely challenging for many African states. This, for many African people, is a reflection of the missing link in our development process. We probably have to invest more in production than we have done in the past. With TICAD IV, this was largely taken into account. I will come back to this issue later.

ルワマシラボ大使：のちほどお話させていただきたいと思いますが、今年の9月、国連のリーダーのもと、実際の行動が開発ニーズにあっているかという検証作業が行われました。

そこで大きな2つの課題があげられました。初等教育、ジェンダーの平等に関しては、非常に大きな進展を遂げていることがわかりましたが、同時に多くのMDGの目標が満たされていないということも発見されました。

特に、貧困削減、子供の栄養失調、乳児・乳幼児の死亡率など、多くの課題が多くのアフリカ諸国においてまだ存在していることがわかりました。

これは、個人レベルであっても、組織レベルであっても、十分な能力がまだないということに起因していることがわかりました。実際にこういった政策を策定するとか、策定された政策を実行に移す能力がないことが大きな課題としてあがりました。

Dr. Rwamasirabo: On the part of the international community, also, there was some progress, but still far from availing the pledged resources.

ルワマシラボ大使：国際的な取り組みにおいても進捗はありましたが、本当に望まれているリソースはまだ達成されていないのが現状です。

Dr. Rwamasirabo: Next please. Coming back to TICAD IV action plan for the next five years – as you know there are four main pillars with a number of sub sectors and a number of activities for each sub sector, so this of course has to be refined and the priorities set. But as you can see, these pillars address the very important concerns of African countries.

ルワマシラボ大使：TICAD IVの行動計画がこれからの5年間に向けて策定されました。ご覧いただけます4つのことが4つの主な柱となります。

4つの柱にはそれぞれに多くのサブセットが設けられ、サブセットごとに行動計画があります。これらに関しては、これからプライオリティを設定していかなくてはなりません。

この4つの柱をみていただいても、アフリカ諸国が非常に重要な問題に取り組んでいることが
おわかりいただけると思います。

Dr. Rwamasirabo: Next please. There are also an awful lot of mechanisms which Africans, especially the African Diplomatic Corps in Tokyo, is fully associated with. Hopefully this will allow both Japan and Africa to make sure the implementation is done.

ルワマシラボ大使：この4つの柱に関してのフォローアップを行う機構も設けられています。

日本にはTICAD事務局が東京にあります。これを通して、行動計画などの実施が促進されることを願っております。

Dr. Rwamasirabo: Next please. There are, however, challenges to TICAD IV implementation as you can understand. One is the diversity of partners. On the African side we have 53 countries; Japan and other development partners also have to build a consensus on what to do. There is a broad action plan with many activities that have to be streamlined and priorities set. The limited Official Development Assistance (ODA) budget is another factor that was discussed by the Deputy Foreign Minister. In Japan, private sector involvement in Africa is still very limited. The low level of direct trade between Africa and Japan, and also the involvement of other partners in the region especially Asian countries are factors.

ルワマシラボ大使：TICAD IVを実行する際には多くの課題が残されています。

1つに、パートナーの多様性があげられます。アフリカサイドでも53カ国を有しているということがあり、また、日本と他の開発パートナーの間でコンセンサスを構築することが難しい課題になっています。

いろいろな行動計画がありますが、それらをどのように合理化していくかも課題です。

先ほどお話がありましたように、ODAの予算が限られてきたことも1つの課題です。アフリカにおける日本の民間企業の介入がまだ限定的であるということも課題です。日本とアフリカにおける直接貿易がまだ低水準にあるのも問題です。また、他のパートナーの動的な動き、アジアの国ごとの動き、組織間での動きともまだ限られたものであるということも課題です。

Dr. Rwamasirabo: Next please. In order to maximize the Japanese assistance to African development in the context of TICAD, here are some proposals that would really have an impact that would be measurable.

ルワマシラボ大使：TICADを通じたアフリカ開発に対する日本の援助を最大にするための提案が掲げられています。これらの内容は、インパクトも影響も大きいものとしてあげられています。

Dr. Rwamasirabo: Cross-border projects in infrastructure and energy; food security, starting from NERICA rice – of course associated with research cooperation; focus on science and technology especially in higher education and other technical education; better aid delivery mechanisms to make the presence of Japan International Cooperation Agency's (JICA) pledge a reality: “scaling up,” “speeding up” and “spreading out.”

ルワマシラボ大使：戦略ですけど、最初には、インフラストラクチャそしてエネルギーに関しての部門横断的な、そして国横断的なプロジェクトの介入。そして食の安全。まずNERICA ラ

イスがあげられますし、食の安全のための研究協力体制もあげられます。

そしてまた、科学技術に焦点を当てるといことです。特に高等教育、技術教育に焦点を当てるといこと、援助を提供する機構を改善するといことです。これはよくJICAの理事長がおっしゃっていることですが、規模を拡大して、スピードを上げ、範囲も広げるといことです。

Dr. Rwamasirabo: The other possible strategies would be to support the AU in peacekeeping operations; the alternative energy programs in the context of environment and climate change; the encouragement of trade; and support Japanese private sector engagement in Africa and its industrialization process; then also support Japan-Asia-Africa development cooperation.

ルワマシラボ大使：他の戦略としては、平和維持活動において能力を支援するといこと。もう1つの戦略としては、代替エネルギープログラムに、より関与するといこと。環境問題、気候変動への対策です。また、日本の民間企業がアフリカの産業化のプロセスにより強く介入することを促すこと、日本・アジア・アフリカ開発協力体制を支援することです。

Dr. Rwamasirabo: In conclusion, Mr. Chairman, the African side looks at TICAD IV as a different TICAD in that it should be more results-oriented than previous ones. Also there is this idea that we have to target fewer things but get them done properly. Another very important message from Africans is that Japan should look at Africa as a partner rather than an aid-recipient-only continent. I think this is a vision we hope the Japanese government and the people of Japan could definitely build and make it true one day. Thank you very much.

ルワマシラボ大使：最後に、アフリカがみるTICADの見方について申し上げたいと思います。

今までとは違った、より結果重視の見方をしていきたいと思っています。これからターゲットを選ぶ際に、プログラムなどを選ぶ際に、より数を少なく、しかしながら適切な形で終了できるプログラムを選んでいきたいといこと。日本にお願いしたいのは、アフリカを被援助国としてではなくて、開発パートナーとしてみていただきたいといことです。

これらのことを私たちは、日本国政府ならびに日本国民の方々に対してビジョンとして持っていきたいと思っています。

ご静聴ありがとうございました。